

国語 試験問題

二月一日実施

注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二、問題は余白をふくめ、十八ページにわたっています。
- 三、試験時間は五十分間です。
- 四、答えはすべて解答用紙の決められた欄らんに記入しなさい。

京華中学校

受験番号

氏
名

余
白

問題は次のページから始まります。

余
白

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「介助員かいじょの人とはうまくいつてるのか？」

パパが急にたずねた。くつろいだ、楽しそうな表情がパパの顔から消えていく。

サイテーだよといったい。あたしは自分でできるのに、ドーンが車いすをつかんで敷居しきいをこえようとするから、すぐイラつくって。周りの生徒のあたしへの接し方が前とはちがうことも……。みんなが、あたしのことをまるで別人みたいにあつかうって。ドーンがいつもすぐそばにいて話を聞いているせいで、友だちとの話がはずまないって。

だけど、こんなにくつろいだ様子のパパはひさしぶりだし、それに、このあいだの面談での居心地いごちの悪そうな様子も覚えている。ドーンとのことは少しだけ落ち着いてきているし。しばらくはこの調子でいけるかもしれない。少なくともパパ自身の授業が楽になるまでは……。それに、ドーンはあたしたちの追い出し作戦でかなりまいっている。このまま続ければ、自分から音をあげてやめてくれるかもしれない。そう思っ¹て、あたしは小さなうそをつく。

「別に大好きってわけじゃないけど、たいしたことないよ」

もう一度さおをふると、釣り糸がヒューと音を立てて宙を切っていった。

パパは納得なつとくしていないみたい。

「また学校にかけ合ってもいいんだぞ」

といった。釣り糸がぐつと引かれ、パパがいなし始める。あたしのさおにもかかったようで、おたがいの釣り糸がからまらないようにすばやく動いた。

ふたりともかなり大きいバスを釣りあげた。クーラーボックスに魚を入れてから、また釣り針はりにエサをさす。パパはドーンのことは忘れてしまったみたい。あたしはすぐくひさしぶりにすごした最高に楽しい日、いや、楽しい週をだいなしにしたくない。明日がもうすぐそこまで来ているんだから、なおさらだ。

「明日が何の日だか、わかってるよな？」

あたしははっとして顔をあげ、投げ入れた釣り糸をまさぐった。釣り糸はあつという間にリールからするするとのびていった。²まるであたしと同じくらいパパの言葉をさけたがっているみたいだ。

もう一度ゆつくりとやり直す。

「わかってるよ」

パパがそれ以上何もいわないから、あたしも様子をうかがう。パパは池をじっと見つめ、遠くの岸に生えた葦のあいだをつついてゐるアカシマアジのつがいを見ている。

明日はママの誕生日だ。ママが亡くなったあと最初の誕生日はつらすぎて、ふたりともやりすごすのがやっとだった。去年はおばあちゃんが仕切って、何か特別なことをするのがまっとうなやり方だと言い張った。そうやって敬意をはらうものよとゴリおしした。

「お墓に行かされるかな？」

あたしはとうとう口に出した。

パパはゆつくり釣り糸を引きあげながらため息をついた。

「そうだろうな」

次の日、パパは早めに仕事を切り上げてあたしをむかえに來ると、ホリークロス墓地でおばあちゃんとおじいちゃんと落ち合った。

ちよつと変かもしれないけど、あたしはこの墓地がけっこう好き。どうせどこかで永遠に眠らなくちゃならないなら、こは悪くない。裏通りにひっそりとあつて、大木が墓石とコンクリートの天使と花輪のうえに影を作っている。高速道路のすぐ横にある墓地を見かけたことがあるけど、ママはそんな場所はすごくいやがっただろう。

墓地に着くと、おばあちゃんは花の鉢と道具をトランクから取りだして、おじいちゃんの腕のなかに積みあげている最中だった。

「全員分、持ってきたから。みんなが集まれてよかったよ」

車をおりて近づいてくあたしたちに向かつていった。

パパの顔がこわばる。

「きれいですね」

花と道具をまとめてお墓まで運ぶあいだも、口数が少ない。

しばらく来ていなかったけど、おばあちゃんはずっと通っていたんだろう。お墓に植えられたグラジオラスの周りは雑草がぬかれて、水やりもされている。おばあちゃんは時間をむだにしない。布を広げてひざ用クッションをポンと地面に置く

と、まるで使命をあたえられたみたいに、新しい花とあたしたちが持ってきた球根を植える穴を掘り始めた。パパは持ってきた剪定ばさみでのびすぎた枝を切る。刈り取った雑草のにおいをかいでくしゃみが出始めたおじいちゃんは、少しはなれたところで眠っている友人たちのお墓を訪ねに行った。

あたしはパパとおばあちゃんが作業しているのをしばらくながめていたけど、お墓とお墓のあいだの長くなめらかな道にそそられ始めた。ちよつとここを活用させてもらっても、ママはきつと気にしないだろう。そう思ったから、ちよつとだけ羽目を外すことにした。

前輪をうかしてウィーリーをする。ほんのちよつとだけ。

とたんに、やめなさい、とおばあちゃんがいつてきた。

「少しは敬いなさい、エミー、お母さんに会いに来てるんだから、ふざけないで」

3 ママはあたしが長い時間ウィーリーができるようになったのを見て喜んでくれるはずだよ。そういいたいのをがまんしてくちびるをかむ。

「好きにさせてやってください、お義母さん。何も傷つけたりしてないでしょう。エミーのやり方で、折り合いをつけさせてやってください」

パパが口早にいう。

おばあちゃんは砂の多い土にシヤベルをつきさした。

「敬意をはらうことを学ばなくちゃだめよ」

「エミーはあなたの娘じゃありません、お義母さん」

4 パパは冷たく、かたい声でいった。あたしはふりかえった。おじいちゃんも。

ふたりはママの墓石の前でにらみ合っている。今にも新しく植えた花をふみつけそう。

「そうよ、エミーはあなたの子。父親で、友だちじゃないのよ。そのことをときどき忘れてるんじゃないの？」

「お義母さん……」

パパの声が、ブチ切れる寸前のバンジージャンプの綱みたいに張りつめている。

おばあちゃんがさらにたたみかける。

「エミーが学校で転倒したこと、どうして話してくれなかったの？ 教会でエタ・ワナメーカーさんから聞かされるなんて」「エタ・ワナメーカーって、何のことです？」

パパの怒りが爆発しそう。

「エタの娘さんは、エミーの新しい介助員のドーンさんよ」

アーチェリーのチャンピオンみたいに、おばあちゃんは言葉の矢を放つ。

「エミーのせいで、大変な思いをしてるそうじゃないの。最近エタの健康もすぐれないし、ドーンも完全にまいっているて！」

まいっているって、いったい何に？

もう少しで聞きそうになったけど、おばあちゃんの話を聞いて、いつもスマホにはりついていてドーンのことを考えた。あれはお母さんの体調が悪くなったからだだったのか。ちよつと罪悪感を覚える。

おばあちゃんって、ゴシップを聞き集めて攻撃手段にとっておくタイプ。エタ・ワナメーカーがなぜ教会であたしの話をみんなにするのか、罪のないいたずらを数回されたぐらいで本当に「完全にまいっている」のか、わけがわからないけど。

どっちにしても、今日はもう十分つらくなっている。

5

あたしは一八〇度方向転換すると、肩が痛くなるくらい強く車いすをこいで猛スピードで墓石のあいだの道を進んだ。でも曲がりくねった道なので、芝生を横切ってきたおじいちゃんに追いつかれた。

「待っておくれ、ビスケットちゃん。ちよつといつしよに散歩しようか。あのふたりはほつとけばいいさ」

おじいちゃんの声はおだやかで、とてもしずか。こつちを安心させてくれる。あたしはおじいちゃんがついてこられるようにスピードを落とした。ピンクや赤の花を咲かせているサルスベリの横を通りすぎながら墓地の奥へと進んでいく。背中を追いかけてくるパパとおばあちゃんの怒りのこもった声を聞かないようにして。

「ふたりはおまえのことでケンカしてるんじゃないよ。それはわかってくれ」

おじいちゃんはどういうと、いつもと変わらない散歩をしているみたいに歌を口ずさむ。

いろんなことがこんがらがっているのは、あたしにもわかっていて。おばあちゃんはパパとあたしがお墓に花を持ってこなかったことが不満で、パパはママの死とどう向き合うかについて放っておいてくれといたくてたまらない。ママがいたころは、ふたりはまあまあうまくやっていたけど、今はそのかけらも残っていない。パパは人に指図されるのが大嫌い。人が選んだ靴をはくぐらいなら、足を切り落としたほうがましだって思う人。あたしと同じみたい。

ときどき思う。けわしい顔をして無理やり家族で夕食を囲みながら、おばあちゃんは自分が思い出させなければと思っている。あたしたちがママのことを忘れるんじゃないかと。

「ふたりがケンカするの、すごいやなの」

あたしはやっと言葉にした。

「おじいちゃんもだよ。悲しみは、人を二度傷つける。まずは悲しみで傷ついている本人、これは常に、だ。それから、悲しみを直視せずに心の周りに壁かべを作ってしまう人。その壁がくずれると、悲しみは人をまた傷つける。いちばん大切な人たちをもまきこむ。大切な人たちを特に傷つけてしまうのだ」

6 おじいちゃんはため息をついた。

あたしは何もいわないけど、車いすの車輪の下になめらかな道を感じていると心が落ち着いて、おじいちゃんの言葉も、なんだかみように合点がてんがいく。にげたくなるのは、家族のなかであたしだけじゃないみたいだ。

(モニカ・ロー 訳・中井はるの『車いすでジャンプ!』による)

1. 線部 A・B のここでの意味として適当なものをそれぞれ選び、符号で答えなさい。

A 「羽目を外す」

ア 全力で楽しむ

ウ 調子に乗って度を越す

B 「まいている」

イ 新しいことに挑戦する

エ 規則に逆らう

ア 楽な方に向かう

イ 精神的に弱る

ウ いやな思いをする

エ あきらめてしまう

2. 線部 1 に「あたしは小さなうそをつく」とありますが、このときのエミー（あたし）の説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア エミーはパパと久しぶりにすごす楽しいひとときをだいにしたくないと考え、ドーンに対する不満をあえて口に出さず、自然のなりゆきでパパが事情を察してくれることに期待している。

イ エミーはパパが久しぶりにくつろいだ様子ですごしているのをうれしく思い、ドーンに対する日頃からの不満を口にしてパパを困らせずに楽しいひとときを過ごしたいと考えている。

ウ エミーはドーンの話をするといつも居心地の悪そうな様子になる。パパに気を遣い、不満を口にすることができずにいるが、パパもドーンに対して不満に思っていると考えて出方をうかがっている。

エ エミーは今の楽しいひとときをだいにするような話題をさけるべきだと考えているものの、どうしても我慢できずにドーンに対する不満をほめかしてパパの気を引こうとしている。

3. 線部 2 に「まるであたしと同じくらいパパの言葉をさけたがっているみたいだ」とありますが、エミーがパパの言葉をさけたいと考えている理由を五十字以内で答えなさい。

4. ———線部3に「くちびるをかむ」とありますが、このときのエミーの気持ちとして最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア ウィーリーの練習にぴったりな道を見つけたのに、おばあちゃんに練習を止められ残念に思う気持ち。
イ 自分とママの関係を考えることなく、頭ごなしに注意してくるおばあちゃんに対して悔しく思う気持ち。
ウ 自分が何をしても注意してくるおばあちゃんに対して我慢の限界を迎え、反抗してやろうと思う気持ち。
エ 自分なりに母への敬意を示したつもりだったが、それをおばあちゃんに否定されて不愉快に思う気持ち。

5. ———線部4に「ふたりはママの墓石の前でにらみ合っている」とありますが、ふたりがこのようににらみ合ってしまった理由をエミーはどのように考えていますか。エミーの考えが具体的に書かれている一続きの二文を探し、初めの十字を抜き出しなさい。

6. ———線部5に「あたしは一八〇度……あいだの道を進んだ」とありますが、このときのエミーの説明としてあてはまらないものを一つ選び、符号で答えなさい。

ア おばあちゃんがまいているドーンを守るために自分を悪者に行っていると気付き、怒りがあふれだしている。
イ おばあちゃんの話でドーンが完全にまいているということを知り、本当なのかと腑に落ちていない。
ウ おばあちゃんの話から教会でエタが自分の話をしていることに気付き、なぜそんなことをするか理解できないでいる。
エ おばあちゃんからエタの体調が悪いことを聞かされ、ドーンにいたずらしてきたことに負い目を感じている。

7. 線部6に「おじいちゃんはため息をついた」とありますが、このときのおじいちゃんの説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 妻と義理の息子によって傷つけられた孫に対して自分ができることはなぐさめることだけだと考え、あえてゆつくりとした口調で話している。

イ 孫が悲しんでいる原因が妻と義理の息子のやりとりにあるため、こどもを傷つけていることに同じ大人として強く怒りを感じている。

ウ 妻と義理の息子が悲しみを受け止められないことで周囲の人間を傷つけてしまっており、二人の関係性が良くならないことにやりきれなさを感じている。

エ 妻と義理の息子のけんかを目の当たりにした孫の興奮がおさまらないため、落ち着かせるために悲しみが起きる原因について教えようとしている。

8. この物語の登場人物や表現についての説明としてあてはまるものを二つ選び、符号で答えなさい。

ア エミーは他の人から特別あつかいされることを嫌い、自分でできることは自分でやって自分の行動は自分で決めたいと強く思っている。

イ パパは人から自分の行動を指図されることを何よりも嫌うが、自分の娘のためであれば自分の考えや行動を変えてもいいと考えている。

ウ おばあちゃんは思い込みで発言してしまうところがあり、自分の考えに不安を抱えながらも間違いを決して認められない性格である。

エ 物語全体を通して比喩表現や擬態語が多用されており、そのことによって読者がエミーの本心を理解しやすくなっている。

オ 物語はエミーの視点で描かれており、他の登場人物の言動によって大きくゆれ動くエミーの心の動きが読者に伝わりやすくなっている。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

情報ネットワークによって世界が広がったかにみえる。もちろん情報検索の世界は飛躍的に広がったし、¹間接的なコミュニケーションの世界も広がったものの、興味のない情報や異質な人間に触れないで暮らせるという点では、むしろ世界は狭まっている。いわば自分にとって都合のよい人物とばかりつながっていればよい。

ネガティブな視線を向けてくる人物、自分の卑小さを感じさせる人物、価値観が著しく異なる人物などとはかかわらないようにすることができると。

ポジティブに見てくれる相手、自分に劣等感を与えない相手、価値観が似ていて「いいね」と共感してくれる相手、つまり一緒にいて心地よい相手とだけかわるということが可能になった。それによって自分好みの世界が簡単につくれてしま

う。

そのため、異質な相手との出会いが乏しい。こちらの至らなさを指摘してきたり、根気のなさや意志の弱さを叱咤激励してきたりする相手は避ける。頑張っている人物、成果を出している人物など、圧倒される相手は避ける。価値観が異なり、意見が対立するような相手は避ける。

そうした異質な相手こそが気づきをもたらしてくれ、²成長につながるのだが、似た者同士で固まっているため、自分についての気づきを得る機会が非常に乏しい。異質な相手とわざわざつながる必要がないし、お互いの偏りを指摘し合うような関係にもならないため、意外な視点からの気づきも得られず、自分自身の偏りにも気づかない。

それに加えて、他人の心の動きを推測する能力も開発されない。異質な人たちとのかかわりを避けるため、人の多様性を想像することができない。

SNSの発達により、ますます同質の仲間ばかりの世界にどっぷり浸かるようになった。たえずかかわりのある人たちとつながっており、ある意味で24時間監視されているようなものであるため、同調圧力に絶えずさらされ、仲間を無視した個性的な行動をとりにくい。ますます人からどう見られるかが気になるようになる。³

このように不快感を与える相手は避け、心地よい相手とばかりかかわるなど、自分好みの環境をつくることができるようになって、自分を振り返って短所や至らなさを修正するチャンスがなかなか得られなくなった。

だれだって短所を指摘されれば、どんなにタフな人でも、多少なりとも傷つくし、落ち込む。できることならダメ出しさ

れるようなことは避けたい。でも、成長していくタイプは、厳しいことを言われて傷つき落ち込んでも、相手を逆恨みする
ようなことはなく、自分を振り返り、修正しようとしたり。パワーアップしようとしたりする。

だが、ネット上を居場所にしていると、リアルな場と違って厳しい意見は遮断しやだんすることができ。リアルな場では、こちらの至らなさを指摘し、厳しい意見を突きつけてくる目の前の相手を見無視するわけにはいかないが、ネット上では無視できる。そのため、耳に痛いコメントはスルーすればよいということになりがちだ。

ネット上でのやりとりを見ると、そんな傾向けいこうがはつきり現れていることが少なくない。 **A**、何か愚痴ぐちったり、世の中を批判したりする書き込みに対して、

「ほんとにそうだね」

「こんな世の中だからモチベーション上がらないのも仕方ないよね」

というような共感的な書き込みにはきちんと返答しているのに、

「愚痴ぐちってばかりいたって何も変わらない。前に一步踏み出すことが必要なんじゃないか」

「同じ世の中においても前向きに頑張って成果を出してる人たちもいるんだから、世の中のせいにするのは甘えあまてるのでは。そんな自分を変えなきゃ何も変わらないと思うよ」

などといった批判的なニュアンスの漂たふよう書き込みはスルーして、何の反応もしない。そんなことがよくある。 ⁴

ホテルのサイトを見ても、利用者のポジティブな書き込みに対してお礼の気持ちを込めた反応をするだけでなく、ネガティブな書き込みに対しても、謝罪とともに指摘してくれたことに礼を述べ、今後の改善の意向を書き込むような反応をしていると、これはしっかりしたホテルだなあと感じる。

B、利用者のポジティブな書き込みに対してはお礼を書き込むといった反応をしているのに、ホテルの至らなさについての指摘などネガティブな書き込みに対しては何の反応もしない、何の改善の意欲もない、非常にいい加減なホテルなんだなといった印象になる。こんなやり方をとっていたら評判を落とすのは確実なのに、改善しようという向上心よりもネガティブな書き込みを読む不快感を避けたいという思いの方が強い、無意識のうちにそんなことをしてしまうのだろう。

結局、ネット上ではリアルな場と違って自分に都合のよい世界をつくってしまえるため、ネット上の世界に馴染なじみすぎると、注意されたり、厳しいことを言われたりすると、それを参考に自分の行動を修正するというような方向に行かず、不快だからと無視したり、傷ついたといって反発したりする心性がつくられていく。

このようにして、ネット上では自分に都合のよい反応が来るような似た者同士で「いいね」と相互承認し合える環境ができあがっていく。

SNSでは、自分がどのくらい関心を集めているか、共感を得ているかがわかる。C、他人の友だちの人数やフォロワーの人数を知ることできる。多くの人とつながっているか、多くの人の関心を集めているかが、自分にも他人にもわかる。

それが多ければ承認欲求が満たされ、得意な気持ちになれるが、少なければ自分に価値がないみたいな感覚に襲われ、自尊心が傷つく。

こうしてSNSは、承認欲求をますます刺激し、人々を承認欲求の虜にしていく。多くの人とつながらないといけない、みんなから注目されないといけないといった強迫的な衝動に駆られ、とくに好きでもない人物とやりとりを続けたり、知識をひけらかすような投稿やウケ狙いの投稿をしたりする。

共感的な反応があればホッとする。好意的な反応がないと傷つく。批判的な反応があったりしたら、ひどく傷つき、落ち込む。そんなネガティブな事態は避けたいということで、似た者同士で群れる環境をつくりたがる。似た者同士で共感し合いながら、それぞれが自分を支えている。

努力して力をつけて承認を得るというよりも、価値観や趣味が似た者同士でつぶやき合って承認を与え合っている。不安な者同士がネットワーク化して、お互いに共感し合い承認し合う。そんな居心地のよい世界を簡単につくれるようになった。

こうなると、承認を得るために何かを必死に頑張つて力をつけるということになりにくい。勉強して知識を増やしたり、資格を取得したり、スキルアップに努めたりしなくても、ちょっとしたアイデアや意見を発信したり、日常の思いをつぶやいたり、ウケ狙いの写真を投稿したりするだけで、それなりに承認が得られる。人はだれでも安易な方に流れやすい。承認欲求を満たすために地道に努力する気になれない人が増えるのもつとまなことと言える。

でも、そんな自分の現状を好ましく思っているわけではない。内心では自己嫌悪を感じていたり、不快感を抱えていたりする。いくら承認が得られたとしても、自分に力がついているわけでもないし、努力ができていないので、自信につながらない。どこかで情けなさや不安を感じていたりする。

そんなときは、自立している人物や自信をもって前進している感じのする人物を避けようとする。堂々としている相手を見ると圧倒されるからだ。対比効果で自分がいかにもちっぽけで価値のない人間のように感じられる。それがイヤだから、堂々とした人物は自分の視界に入らないようにするのである。

1.

A

↘

C

 にあてはまる言葉として適当なものをそれぞれ選び、符号で答えなさい。

ア つまり イ 一方 ウ たとえば エ さらに

2. 線部1「むしろ世界は狭まっている」とはどういうことですか。それを説明した次の文の

I

↘

III

 にあてはまる言葉を、指定字数でそれぞれ抜き出さない。

I (八字) の発達によって	II (十三字) が可能な範囲は広がっているが、実際には
III (八字) とかわる	こと、範囲が狭い自分好みの世界を作りやすくなってしまったということ。

3. 線部2「成長」とはどのようなことですか。「↘こと」につながるように三十二字で探し、初めと終わりの五字を抜き出さない。

4. 線部3「自分好みの環境」とはどのような環境ですか。三十八字で探し、初めと終わりの五字を抜き出さない。

5. 線部4「そんなこと」とはどういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

6. 線部5「そんな自分の現状」を別の言葉で表した部分を六字で探し、抜き出さない。

7. ———線部6に「堂々とした人物は自分の視界に入らないようにするのである」とありますが、その理由として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 堂々とした人物からは好意的な反応を得ることが難しいうえに、見ていただけで圧倒されてしまうから。
イ 堂々とした人物に批判的な反応をされると、自信をなくして情けなさや不安を感じてしまうから。

ウ 自尊心が傷ついているときに堂々とした人物を見ると、自分がつまらない存在に感じられてしまうから。
エ 不安なもの同士で出来上がったネットワークの中では、堂々とした人物ははじめないから。

8. 本文の内容としてあてはまるものを二つ選び、符号で答えなさい。

ア 現代人が他人の心の動きを推測できなくなっているのはインターネットの発達によって、人と直接対面する機会が減ってしまったからだ。

イ インターネット上のネガティブな書き込みに反応すると、さらなるネガティブな書き込みを増やす原因になってしまう。

ウ 価値観が大きくかけ離れている相手との対話が、自分の偏りを気づかせてくれるような意外な視点からの指摘を得ることにつながる。

エ SNSではフォロワー数が絶対的な価値を持つため、人数を増やすためにより多くの人から共感されるアイデアや意見を発信するようになる。

オ SNSではつながっている人たちと常に同じようにふるまうことが求められ、自分らしいふるまいをできなくなってしまうことがある。

三、次の①～⑤の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------------|---|------------|---|-------------------------------|
| ① | 城には立派な玉座が設けられた。 | ② | 入学式に祝電が届く。 | ③ | 彼は医者 ^{かれ} の風上にも置けない。 |
| ④ | 遠くで角笛の音がする。 | ⑤ | 道半ばであきらめる。 | | |

四、次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- | | | | | | |
|---|-----------------|---|------------|---|---------------------------|
| ① | 父は飲食店をケイエイしている。 | ② | ギョフの利を得る。 | ③ | トウド ^{かれ} が高い食べ物。 |
| ④ | 父の仕事はウンユ業だ。 | ⑤ | テレビ画面にウツる。 | | |

余
白

余
白